

自宅療養者の健康観察縮小

都、重症化リスク高い人を優先

新型コロナウイルスの感染急拡大を受け、東京都は27日、保健所や、看護師が対応するフォローアップセンターが自宅療養者に実施している健康観察の範囲を縮小すると明らかにした。31日から健康観察の対象を入院のおそれがある人や基礎疾患がある人、50歳以上に絞り、40代以下の自宅療養者は、体調に変化が生じた場合など、新設する電話相談窓口に自ら連絡する仕組みに転換する。

▼27面II重症者じわり増加

27日とあつた都のモニタリング会議で説明した。都内では昨夏の第5波で自宅療養者が急変して死亡する事案が続出。都是保健所やフォローアップセンターによる支援体制を強化し、第6波では保健所の負担軽減のため、約1400の医療機関に健康観察を委託する仕組みを整えた。だが、自宅療養者が急増したこと

で、重症化リスクの高い感染者を優先せざるを得なくなつた形だ。医療機関による健康観察の対象は狭めず、継続を求める。

都内の新規感染者数は27日に1万6538人と過去最多を更新。自宅療養者は27日時点でおよそ5万人を超えた。

都の担当者は「すべての人々に完璧な健康観察をする

ことは現実的でない。本当に困った人にアクセスできる仕組みを整えた」と説明。健康観察の対象外となる感染者向けに新設する自宅療

養サポートセンターには電話回線を300回線準備し、状況に応じて医療機関などにつなぐという。一方、都是重症化リスクが高い高齢者の入院者数を抑制するため、高齢者施設などで複数の感染者が発生した場合、入院ではなく、医療機関が施設に往診して対応する新たな仕組みを導入する。

27日の都の会議では、週

平均の新規感染者が26日時点でおよそ1万466・9人と前

週の2・3倍に増え、このままの増加ペースが続いた

場合、2月3日には1日あたりの感染者数が2万4千人に達するとの推計も示された。（関口健代子）